

1 1月の税務と経営

事業領域を明確に把握していきましょう。

経営ビジョンは、次の四つのことから成り立ちます。

① 経営理念 ②事業領域 ③戦略経営目標 ④組織風土

今回は②の事業領域について検討していきましょう。事業領域とは、環境変化に対応するドメイン（事業領域、活動領域、得意分野など）を再検討し、取り組む事業を明確にし、社内のベクトル（方向）を合わせていくことです。

すべての会社は、環境の中で生存しています。その環境のどの部分を活動領域、生存領域とするかは、大きな課題です。

狭い領域の中で、地味に堅実に、特定の製品やサービスを提供している会社もあれば、多くの製品やサービスを手広く扱っている会社もあります。いずれにしても、「わが社の事業領域は何か、どこをめざすのか」をハッキリさせなければなりません。そのことは、次の3点から検討します。

① 狙う市場と顧客は？

まず初めに、どこの、誰を対象として会社を運営するのかを検討します。地域・年齢・性別・職業・ブランド・購入チャネルなどから、狙う市場と顧客の特徴や特質をハッキリさせます。

② どんなニーズと期待に応えるのか？

狙いを定めた顧客や市場がどんなニーズや期待を持っているかを検討し、そのうちの何に応えるのかを決定します。製品には、「品質、性能、価格」などのハード面と、「デザイン、色、使いやすさ、なじみやすさ」などのソフト面があります。そのうちのどこに重点を置くのかを決めるわけです。

③ 何によってアドバンテージ（優位性）をとるのか？

同じ市場を狙っているライバル会社はたくさんあります。そのライバルとの競争に勝つためには、「違い」が必要です。どこで差をつけ、アドバンテージ（優位性）を発揮するのかを決めて、その実現に取り組みます。

この三つの手順によって、事業領域を明らかにしていきましょう。

民主主義国は少数派になりました。

日経 10.26

スウェーデンの調査機関によると、2019年に民主主義国・地域は世界に87。非民主主義国・地域は92で、民主主義が18年ぶりに非民主主義の勢力を下回りました。20年に民主国家に暮らす人は世界の46%と、旧ソ連が崩壊した1991年以来の水準に沈む。法の支配や言論の自由を常に磨く。誰にも縛られない発想を育む礎は誰かが守ってくれるわけではない。民主主義を揺らすのは低成長と富の集中だ。1980年代に3%を超えた世界経済の平均成長率は2010~20年に2%台前半に沈んだ。

相続時精算課税による贈与を検討してみましょう

① 相続時精算課税とは

贈与税の暦年課税との選択制で、相続税と贈与税の一体化の仕組みがあります。これは、親から子へ財産が生前に贈与された場合、贈与時に2500万円の特別控除（複数年にわたって利用可能）を超える部分について一律20%の税率で贈与税が課され、その後の相続時にその贈与財産価額と相続財産価額を合算して相続税額を計算し、そこから既に支払った贈与税を控除するという制度です。

この選択は贈与を受ける子、例えば長男は長男で、次男は次男で各々この制度を選択できます。さらに贈与をする父母ごとに、たとえば長男は父からの贈与に対して選択し、弟は母からの贈与に対して選択することができます。

このように従来の暦年課税を選択するか、相続時精算課税制度を選択するかは、それぞれもらう人が決定することになります。

② 贈与時の時価で相続税を計算

実際に相続が発生した場合、この制度を利用した贈与財産の相続時の課税価格はどのようになるのでしょうか。この場合は贈与時の時価をもって相続税を計算します。そのため、将来値上がりが確実な資産については、メリットがあります。

また、マンションなどの収益物件を贈与すれば、将来的に相続財産となる不動産収入や現在の所得税等を抑えることができるという点においてもメリットがあるといえるでしょう。

③ 留意点

この制度は、贈与者は60歳以上である親または祖父母、受贈者は20歳以上の子または孫が対象になります。各年齢の判定はその年の1月1日の現況によります。

そしてこの制度を選択した場合は、相続時まで継続して適用しなければなりません。ですから、あとから「やめます」というわけにはいきませんので注意が必要です。

④ ご提案のポイント

- 1 複数年にわたって2500万円までの非課税枠が利用できます。
- 2 値上がりが確実な資産でも贈与時の低い価額によって相続税計算できます。

ごあんない

富山県はコロナ禍も少なく幸せな県です。しかし、油断することなく業務に精励してまいりましょう。世界経済には大きな揺れが押し寄せています。資本主義、自由主義にも変化が訪れているようです。現実の企業経営においては、着実に収益を向上させていく努力を継続してまいりましょう。